

◆CELINE×Ai Tominaga×子供地球基金 “The Ai bag”

フランスの老舗メゾン セリーヌ(CELINE)より、モデル富永愛さんプロデュースのマザーズバッグ“The Ai bag”が発売されました。モデル業の傍ら、自身も4歳の男の子の母でもある富永さんが企画段階から携わったバッグは、ママだけではなく女性なら大満足の機能性と収納力を兼ね備えたうえ、コーティング・キャンバス素材を使用したCELINEでも人気のシリーズ「トゥールビヨン(TOURBILLON)」をもとにしたファッショナブルなデザイン。

このバッグは、売上げの一部が子供地球基金に寄付されるというチャリティ商品。3月14日には発売を記念したイベントがCELINE one表参道ブティックにて開催され、世界中の子どもたちが描いた温かい絵が飾られた会場では、プロデュースに携わった富永愛さんと子供地球基金代表 鳥居晴美のトークライブも行われました。富永さんは、「子どもは力と笑顔をくれる存在。心のこもったこのバッグを幅広い方々に使ってもらいたい」と子どもへの想いとこのバッグへのこだわりを語ってくれました。

富永さん、そしてセリーヌ、そして参加された皆様の、子どもたちへの温かい想いでいっぱいとなったチャリティイベントでした。



イベントでは、顧客やモデルをはじめ、たくさんの方々がバッグの誕生をお祝いしました

◆「げんきな せかいの なかまの え」

4月29日、子供地球基金は富山市内でアートワークショップを実施しました。会場は、市内を走る「ポートラム」を運行する富山ライトレールの創業3周年を祝うイベント。電車が大好きな元気な子どもたちがたくさん集まってくれました。雲ひとつ無い青空の下 細長く敷かれたまっ白なキャンバスと、色とりどりの絵の具にみんなドキドキ。一斉に、元気に描き始めると、キャンバスは、イベントのテーマでもある花 笑顔、そしてみんな大好きなポートラムでいっぱいになりました。



完成した作品に名前を付けてみよう!この問いかけに子どもたちから出た答えは、「元気が出る絵」「なかまの絵」…。そしてこの大きな、元気いっぱいの絵にぴったりの名前が決定。「げんきな せかいの なかまの え」!たくさんの人たちで盛り上がるステージに展示されると、子どもたちは元気よくこの作品の名前を発表してくれました。

富山ライトレールでは、4月27日より「はなポートラム」が運行中。この「はなポートラム」は、子供地球基金に寄せられた世界中の子どもたちの絵でいっぱい。

さらに車内に足を踏み入れると、そこはまるでこども部屋のよう。インテリアショップ アクタス富山店の協力により、シート部に特製のファブリック、床面にもフローリングプリントを使用するなど、遊び心のある楽しい電車は、子どもたちはもちろんたくさんの笑顔でいっぱいです。

みんなの元気、みんなの思いを世界に届けようと、アクタス富山店でもアートワークショップを開催。ここにもたくさんの元気な子どもたちが集まってくれました。はじめは何を描こうかと迷っていた子どもたちも、一旦描き始めるとどんどんと創作意欲が湧き、もっともっと描きたい!という声があがるほど。中には、筆を使わず手を使って描く姿もあり、色とりどりの楽しい作品が完成しました。



会場には子どもの絵を使ったフラワーアートも登場。また会場にて運行された1/10サイズのミニポートラムの乗車料金は、子供地球基金に寄付されました。



この日、アートワークショップで完成した子どもたちの作品は、各地で展示されます。世界の子どもたち、そして日本の子どもたちの思いが一緒になった「はなポートラム」は10月までの期間限定運行です。

◆1000000人のキャンドルナイト

1000000人のキャンドルナイトが今年も日本各地で行われます。たくさんの温かい想いでいっぱいのお大阪での催し『1000000人のキャンドルナイト@OSAKACITY 2009 SUMMER』に、子供地球基金も参加させて頂きました。

6月1日(月)～ 7日(日)ヒルトンプラザ イースト1F アトリウムに、世界のいろいろな国の子どもたちが描いた笑顔あふれる絵が登場。優しい気持ちでいっぱいのキャンドルナイトを楽しむたくさんの方々に、子どもたちの心の奥からの純粋な想いに触れて頂く機会となりました。

隣接のカフェでは、子どもたちが描いた絵をあしらったキャンドルシェードを展示。世界中の笑顔がキャンドルの灯火に照らし出されました。

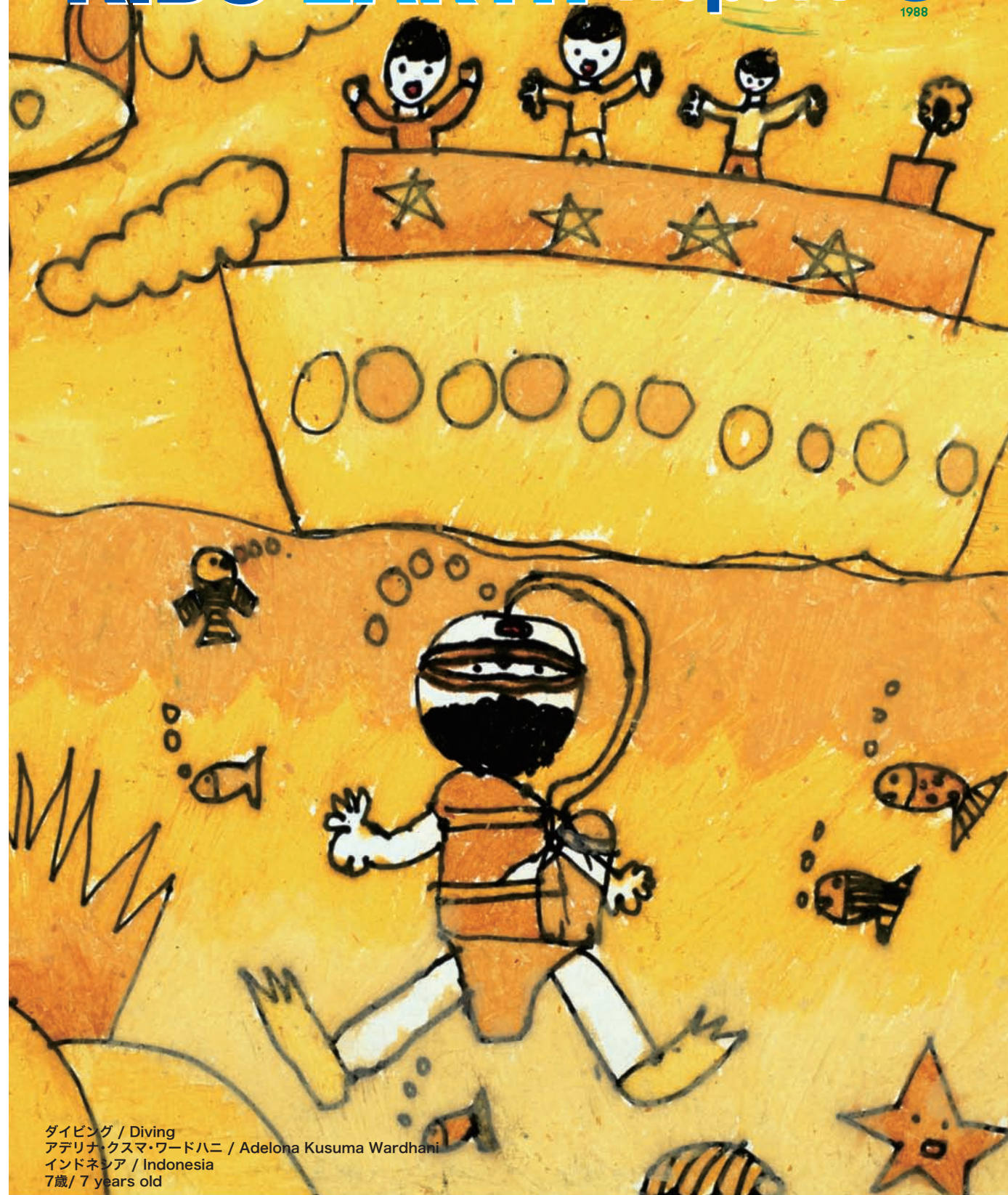
また、子どもたちの絵が入ったチャリティキャンドルも販売。収益を子供地球基金に寄付して頂きました。キャンドルの炎のように温かい想いは、子供地球基金を通し、世界中の支援を必要としている子どもたちの為に活用されます。



■ NEW MEMBER 新規にご入会いただいた方々です

【個人会員】 鈴木 麻紗子 様 林 光夫 様 松本 恵子 様 【法人会員】 株式会社ルック

(2009年3月1日～ 2009年5月31日・敬称略/五十音順)



ダイビング / Diving
アデリナ・クスマ・ワードハニ / Adelona Kusuma Wardhani
インドネシア / Indonesia
7歳 / 7 years old

特集 子供地球基金展 in CANADA



子どもたちの絵300点で会場は埋め尽くされました

5月12日から16日まで、カナダ・バーナビー市のナショナル日系博物館・ヘリテージセンターロビーにて、Children's Impressions 2009と題した子供地球基金主催の絵画展が開催されました。子供地球基金では、これまでおよそ40カ国での支援活動を展開し、フランス・ボンビドゥーセンター、ロシア・プシキンミュージアムをはじめ、様々な国々で絵画展を開催して参りましたが、カナダでの絵の絵画展開催はこれが始めて。日本総領事館、そしてナショナル日系博物館の後援のもと、たくさんの方々のご協力を得て実現しました。

吹き抜けの広い空間を、世界中から子供地球基金に寄せられた子どもたちの絵画およそ200点と、さらに地元小学校3校の協力によりカナダの子どもたちの作品およそ100点、色鮮やかな子どもたちの絵で埋め尽くしました。

12日のオープニングレセプションは、絵を寄付した地元バーナビー市の子どもたちを含め、150人近い方々が駆けつけてくださいました。大塚聖一在バンクーバー日本国総領事、日系ヘリテージセンター林光男理事が温かいお言葉で始まったオープニングレセプションは、大竹香織さんの素晴らしいハーブの演奏でさらに会場を華やかに。コスモス・セミナーのボランティアの方々のご厚意による和菓子とともに、子どもたちによる温かいアートを楽しんで頂きました。

また会場では、子どもたちの作品がデザインとなったポストカードや画集などのグッズを販売。子どもたちの作品と、そこに込められた子どもたちの思いに触れた方々の多くが、グッズの購入や募金にご協力くださいました。



現地の子どもたちから、絵の寄付や募金がたくさん集まりました

絵画展開催中、たくさんの作品に囲まれた会場では、来場した子どもたちとともにアートワークショップも実施。子供地球基金の趣旨を説明すると、どの子も興味津々です。「この絵はどこにいくの?」「どういう子どもたちを支援するの?」生き生きとした目で尋ねます。自分が描いた作品が、世界のどこかに暮らす子どもたちを救うということを理解すると、絵を描く手に一層力が入り、またたくさんの温かい作品が出来上がりました。中には、自分のお小遣いから募金をしてくれる子どもたちも。子どもたちにまで幅広くチャリティに対する意識が根付いているようです。

テレビや新聞、雑誌などたくさんのメディアでも取り上げて頂き、5日間で来場者数は述べ800名を超えました。世界中の子どもたちから寄せられた絵の数々は、カナダのひとびとにどのようなメッセージを残すことが出来たのでしょうか。たくさんの一ひとりの、子どもたちへの温かい思いがひとつになり、「KIDS HELPING KIDS」の輪がカナダでも大きく広がりました。



どこの子が描いたんだろう?

KIDS EARTH HOME Project キッズ・アース・ホームプロジェクト

KIDS EARTH HOME Report -No.1 KIDS EARTH HOME Croatia-



4月のクロアチアはもうすっかり初夏のような温かさ。昨年9月に再建されたキッズ・アース・ホームの庭には、子どもたちが植えた木や花がすくすくと育っています。

新しいホームにやって来た子どもたちは、すっかり慣れた様子で2階のワークルームへ。そこには、以前に至誠学園の子どもたちとの作品交換で寄贈された「浦島太郎」をモチーフにした絵が子どもたちを迎えています。このワークルームで子どもたちは絵を描いたり、友達と遊んだり、楽しい時間を過ごしています。



2階のワークショップには、笑顔でアート制作を楽しむ子どもたちの姿が



広い庭には、子どもたちが自分たちの手で植樹した木や花が育っています

子供地球基金では、独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構の助成を受け、この施設の拡充を行う運びとなりました。アートワークや心理プログラムをさらに充実させ、子どもたちのみならず、未だに不安定な状況の残るクロアチアにおいて、地域単位での復興のモデルケースとなるべく支援活動を続けて参ります。

キッズアースギャラリー with ガールズスカウト ～元気いっぱいの春～

アメリカンガールズスカウトから11人の女の子たちが絵を描きにやってきてくれました。今回初めてのアートワークショップでしたが、この日は曇りつつない晴天だったこともあり、子どもたちは始まる前から元気いっぱい。初めて見る大きなキャンバスや、たくさんの種類の絵の具を前にさらにテンションもアップ!今回のテーマが「元気いっぱいの春」だと伝えられると、待ちきれなかったと言わんばかりに、みんな一斉にキャンバスに元気に描き始めました。最初は真っ白だったキャンバスが、てんとう虫や虹、花でいっぱいのカラフルな作品に仕上がりました。子どもたちの元気がたくさん伝わってくる作品になりました。



KIDS EARTH CAR Project キッズ・アース・カープロジェクト

神奈川県立こども医療センター ～自由に描こう～

ちょっとずつ春の訪れを感じ始めた頃、神奈川県立こども医療センター 幼児外科病棟でアートワークショップを実施しました。色々な色の画用紙を選び、たくさんの絵の具を使って自由に絵を描くアートワークショップに、7人の子どもたちが参加してくれました。

まずは何色の画用紙を選ぼう?ピンクや黄色、水色など、温かい春の訪れを感じ始めている子どもたちが選んだのは、どれも優しい色。そこにお花や動物、そして外で遊ぶ様子など、それぞれに自由に描いていきました。

これ、なんだ?絵を描くのが得意な男の子は、いつも描いているという絵を誇らしげに描き、筆で絵を描いていた女の子は、筆をおき、指で絵を描くのを楽しみました。バスでお出かけをしたときの楽しい思い出を描く女の子も。完成した作品は、みんなが大好きなものの、楽しいこといっぱいです。



慈恵医大 ～Yの木～

慈恵医大での3月のアートワークショップは「Yの木」に挑戦。この日は天気がとても良く、温かな陽射しを浴びていると、気分はもうすっかり春です。今日は一早い春の訪れを予感しながら、一人一人が思い思いの春を描いてみることに。ボランティアの方々による手作りの、色とりどりのY形の画用紙を木に見立て、その木の周りに色々な飾りをつけたり、絵の具で描いたり。ピンクや赤の色紙で出来たハートや水色のふわふわの綿、さらには、どんぐりや木の葉も使って

飾りつけていくと、今にも温かな春の風が吹いてきそうです。

はじめてから絵の具に手を伸ばす子もいれば、まずはどんぐりの実をピンクや黄色に塗り、それを画用紙に貼り付けていく子も。

男の子が描いた春は、緑色やブルーの色で画用紙いっぱいに染められ、とても力強い春の息吹を感じさせる仕上がりに。そして女の子が描いた春は、ピンクや黄色のお花や果物が飾られ、温かくさわやかな春の訪れを感じさせてくれる仕上がりととなりました。さて今年はいったいどんな春が訪れているのでしょうか。春が待ちきれない!子どもたちのそんな想いがいっぱいの作品が完成しました。



やっとな春がきたぞ!

東邦大学医療センター大森病院 ～自然の虫たち～

ゴールデンウィークを過ぎると、夏がすぐそこまで来ているようなお天気の毎日。

町中に緑が溢れる5月14日、東邦大学医療センター大森病院でのアートワークショップのテーマは、子どもたちの大好きな「虫」。

まず初めにロシアや韓国、スロバキアの子どもたちが、みつばちやかたつむりなど、「虫」を描いた作品を見てみました。外国にもいるんな虫がいて、みんなみたいに虫が好きなのかな?そんなこともつぶやきつつ、4歳以上の子どもたちは、皆で同じキャンバスを使って、参加者9人全員でひとつの作品作りに挑戦です。子どもたちは楽しそうに色を選び、筆を運び、キャンバスの上にたくさんの「虫」が描かれていきます。てんとう虫、ちょうちょ...中にはみたことのない虫も。そしてその周りにはお花や山などが加えられていきました。まっ白だったキャンバスは、色とりどりの「虫」たちが主役の大きな世界になっていきました。とても楽しそうな作品が完成!子どもたちによって「自然の虫たち」という名前が付けられました。4歳以下の子どもたちは、カラフルな絵の具でいろいろな色を楽しみながら、大きな画用紙に自由なお絵描きを楽しみました。「はい、どうぞ!」と自分が使っていた色をお隣のお友達にも貸してあげることができました。

子どもたちの笑顔が溢れ、すがすがしい自然を感じるアートワークショップになりました。



コラム DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol.25 子供地球基金顧問 株式会社ボーネルンド代表取締役社長 中西弘子氏

子どもにとって、「遊ぶことは生きること」です。

遊びは学びであり、創造、想像することの楽しさ、からだ全体を使う爽快感、手先で表現するおもしろさ、仲間と協力する喜びなど「生きる力」を育みます。

この「生きる力」を与えてくれる遊びと、その環境づくりに取り組んで30年。少しずつ遊びの大切さが日本社会に理解されつつあるのはうれしいことです。

とても感動する出来事がありました。当社の25周年事業で何か世の中に残したいと、世界30カ国の子どもたちを「遊び」をテーマに撮りおろし、写真集にまとめました。その収益金を恵まれない子どもたちに役立ててもらおうという企画の中で「子供地球基金」を、そして、この地球上には戦争や内乱の絶えない国や地域で生きている子どもたち、エイズなどの病に冒されている子どもたち、貧困のために働かなければならない子どもたちがたくさんいるということを知りました。写真を通してその子どもたちとの出会いがありました。

あれから5年が経ちました。各地で子どもたちが描いた絵の展覧会をやらせていただいたり、カンボジアやインドネシア、中国、ベトナムなどの子どもたちに「あそび道具」を届けてきました。

私たち大人にできることは、子どもたちみんなが持っている将来の可能性を育み、彼らの大切な遊び場である地球を未来に伝えていくことです。微力ながらこれからも支援していきたいと考えています。

展覧会



●大阪・北区

5/19(火)～5/28(木)
イーマ ガalleryスペース「ディーバ」にて

●大阪・北区

6/1(月)～6/7(日)
1000000人のキャンドルナイト
@OSAKA CITY
“キッズ・スマイル・ギャラリー”
ヒルトンプラザ
イースト1Fアトリウムにて

●兵庫・神戸市

5/23(土)～6/1(月)
アクサス六甲店にて

●富山・富山市

4/29(水)
富山ライトレール 3周年記念イベント
はなポートラムにて

●東京・新宿区

11/13(木)～
MUJI新宿 B1にて

●東京・中央区

3/5(木)～
無印良品 有楽町店 2Fにて

●東京・千代田区

6/7(日)
三井住友銀行主催コンサート会場
日本大学カザルスホールにて

●東京・目黒区

6/20(土)～26日(金)
ライズギャラリーにて

●カナダ・バーナビー

5/12(火)～5/16(土)
日系ヘリテージセンターにて
世界の子どもたちの絵画展